

7月15日(金) 朝来幼稚園の公開保育を実施しました。

昨年度は、朝来小学校と共に保幼小連携の公開授業・保育を実施していただいた朝来幼稚園において、今年度保育を公開されました。園長先生が「子どもは体験する中で様々なことを知り、身につけていく、そして身につけた力を小・中学校、その先の将来へとつなげていく教育を目指している。しかし、実際の保育では、どのようなねらいを持って活動すればいいのか、どうすれば子どもの知的好奇心を引き出せるのか、子どもたち自身がやりたい、おもしろいと感じられる環境はどうすればいいのか、次の活動にどうつなげるのか、学びたい。」と挨拶されたように、保育を実践している先生方も参加した先生方も一体となってその場を共有し、学び合うことができました。

参加の皆さんには、保育の場面を切りとり記録していただき、公開園の皆さんにお返しするようにしています。記録を取ることや記録をもとに保育を語り合うことも研修の一環で大切な要素です。

参加園/校

永福保育園	朝来幼稚園
岡田保育園	池内幼稚園
さくら保育園	倉梯幼稚園
タンポポハウス	中舞鶴幼稚園
平保育園	舞鶴聖母幼稚園
東山保育園	舞鶴幼稚園
八雲保育園	
うみべのもり保育所	大浦小学校
中保育所	
西乳児保育所	

**3歳児はもっと自由でよい。みんなでしなくては！と枠にはめようとしすぎたりしない方がよい。
4歳児は友だち同士でのイメージの共有が大切、5歳児には、協同的な遊びを意識してほしい。
～神戸大学大学院 准教授 北野幸子先生のコメントより～**

<3歳児～うみごっこ>

いつも水があるところが乾いてうっすらと泥の層ができていた。いつもと違う泥の感触に興味を持ったり、いつものように桶から容器を転がしたり、それぞれの遊びを楽しんでいた。

北野先生より

◎3歳児はもっと自由でよい。保育者の中に完成品のモデルがありすぎたり、みんなでしなくては！と枠にはめようとしすぎたりしない方がよい。

◎予定していた通りではなかったからといって無理やり予定の環境にしなくてよい。それは環境構成の意味が違う。

◎今日はそんなに暑くないから水をはらずにいつもと違う環境の中で、子どもがどう遊ぶのか、何を感じるのか、保育者もいっしょになって楽しむとよい。

◎最初の方の泥の感触を足で確かめたり、同じ泥あそびにしても、あれしたい、これしたいという一人ひとりの気持ちは違うので、それを大事にしてほしい。



<4歳児～ふねごっこ～>

ひたすら砂場に穴を掘って遊んでいた子どもたちの「船に見える」という言葉から始まったふねづくり。船の壁面には、隣にある赤土がよいことに気づき、さら砂をかけることでより固くなることから壁づくりを数人で楽しんでいた。船には、おふろや台所があるという話から、この日は、赤土のところで料理を作る遊びが広がっていた。

北野先生より

◎4歳児は友だち同士でのイメージの共有が大切であり、このクラスの子どもたちはそれができている。

◎子ども同士の会話の中にも「ありがとう」など、良いコミュニケーションがたくさん見られ、保育者の姿が子どもに出ていると感じた。

◎ふねづくりをしている中、お味噌汁を作っている子に対しても保育者が「いいね」と肯定的に言うておられたのがよかった。

◎子どもたちが保育者の顔をうかがうような様子が一切なく、遊びにすごく集中している。

◎子どもたちの目線がモノへといき、体も動いている。自由度が大きい方が自然と視線や体が動いている。



<5歳児～シャボン玉遊び～>

大きいシャボン玉、割れないシャボン玉を作りたいというイメージを持って、グループごとにシャボン玉液を作っていた。家から持ってきた道具を使っていろいろなシャボン玉を作ることを楽しんでいた。「地面に落ちて割れない」「棒を通して割れない」ことを発見している子もいた。

北野先生より

◎もう少し素材の内容などに違いがあってもよかった。

◎5歳児であれば、大きさ、量、数、形に着目する姿、また友だちと一緒に作るといったような姿が出てくると、さらによかった。

◎先生との関係性がよいこともあるが、子どもたちが「先生」と何度も呼んでいた。

◎5歳児には、協同的な遊びを意識してほしい。年齢+1人ほどの集団で、同じ遊びを楽しめるとよい。そのためには同じ好奇心・探究心を持っている子が集まれるように声かけをして、子どもたちをつないでいくことが大切である。

◎地面に落ちて割れないことに気づいている子と棒を通して割れないことに気づいている子をつなぐ。走って作っている子には、風の向きに気づいている子をつなぐなど、意識して関わるとよい。



公開保育カンファレンス

できたかどうかよりも、やってみたいという意欲、創意工夫や情意、何だろう、不思議だなあという気持ちをたくさん育てることが大切である
～北野先生より～



【朝の集会】

◎歌がとても良かった。ピアノを弾く先生、前に出る先生、横にいる先生と分かれており、子どもたちの声をしっかり拾っていた。

◎立って歌うことが大切であり、そういった基本がしっかりとできていた。

◎集会場面は大切。その中で、歌と絵本は必ず取り入れてほしい。

◎音楽と絵ボードに合わせて英語を言う活動では、活字ではなく、実物で覚えていくことが大切である。言語は、日常の会話で使わなければ獲得は難しい。

◎実体験・経験を伴わない学び（カードやドリル的なモノ）は意味がない。むしろ後の学習にマイナスを与えてしまうことがある。

◎外国の人を見ても怖くない、様々な国に親しみをもつことは大切だが、この活動（朝の集会場面での英語遊び）がそういった姿につながっているかはわからない。

◎6歳までの語彙数には、2、3千語～4万語と差があることがわかってきた。その差は大きくなって縮まらないことから、6歳までに語彙を増やすことは大事ではないか。

【振り返り】

◎子ども同士の顔が見えるコの字型、円型がよい。

◎子ども同士でお互いの顔が見え、協同的な学びや、他者に関心が向くことにつながる

◎聞く力のプロセスは、先生と子どもの1対1→友達同士1対1→先生対子ども集団→子ども対子ども集団へと育っていく。

【指導案】

◎子どもの遊びや姿を領域ごとにまとめ

る必要はなく、遊びの中のねらいとして意識することが大事。

◎シャボン玉遊びのプロセス、学びのプロセスを整理しておく必要がある。

- ・大きさ、量
- ・連続性
- ・風との関係性
- ・作製（作る、置く…）
- ・素材、分類、発想

◎行為目標や結果目標ではないものがねらいになることが大切である。

【保育者の関わり】

◎「それもいいね」「それもおもしろい」「そんなもったね」など、保育者の子どもに対する肯定の言葉がすごく多いのもよかった。

◎結果ではなく、中身についての発言があるのがよい。

◎保育者が結果にこだわっていると、子どもに伝わり、子どもが萎縮してしまう。そうすると主体性や自主性が出てきにくい。

◎できたかどうかよりも、やってみたいという意欲、創意工夫や情意、何だろう、不思議だなあという気持ちをたくさん育てることが大切である。

◎「先生見てー」など、子どもたちから保育者への呼びかけが多いことから、保育者と子どもたちとの関係性がとてもよいことが伝わってくる。これを子ども同士の相互作用につなげられたらもっとよい。

【幼児保育で大切にしてほしいこと】

①体験・経験が基本であること。気持ちや必然性が大事。

◎実体験の中で五感を複数一緒に使うことが大切である。

②情意、知識・技術の習得、活用力・応用力、心情・意欲・態度を大切に育てる。

◎2歳で多い子は1日で7つの単語を習得する。これは豊かな体験から、感情が起点となり、経験として蓄積される。「おもしろそう」、「何でかな?」といった物への関心・

知りたいことへの関心、疑問など、主体性を育てていくように関わることが大切である。

◎「できた?」「わかった?」など、結果のことを聞くのは避けるべきである。わからないこと、知らないことは素敵なことだと伝えていってほしい。

③応答性・フレキシビリティであること。◎保育には教科書やガイドがないからこそ、予測しないことを大切にしてほしい。手順通りにいかないことをむしろ歓迎する姿勢を持ってほしい。

◎子どもとの相互作用を大切にすること。

◎環境も子どもたちと一緒に作る。

④発達に応じた保育をする。

【3歳】

◎自己主張が盛んな時期

◎予定していないことをした時もその姿をどんどん認める。

◎“できた”よりも“やろうとした”ことを大切に受け止める。

◎待つ時間を多くしないことを意識する。

◎いざこざの経験がない子は、いざこざの対応能力が低い、だから、いざこざをどんどん経験させてあげるべきである。

【4歳】

◎協同性や創意工夫が出てくる時期

◎実体に対する興味を大切にすること。

・「はい、では」のような言葉は手順通りにしようとするものであるため、発しない方がよい。

◎曜日は視覚支援があった方がわかりやすいので、カレンダーを見ながら話すようにするとよい。

【5歳】

◎協同的な学びの時期

◎興味を持っている内容に近い子ども同士をつなげるために、お互いのことに注目するような声かけが大切となる。

◎年齢+1人ほどの集団ができることを意識する。

7月14日(木) グループワーク、公開保育指導案についての検討を実施しました。

グループワーク

前回同様グループ（6～7人×4グループ）にわかれて、事例の記録を元にグループワークを実施しました。

視点を定めるためのワークシートは、ドキュメンテーションを書く視点と同じでもあり、また、保育を記録する視点でもあります。今年度は新しい試みとして、公開保育の参加者に公開当日の遊びの場面を記録してもらっています。普段保育をしながら記録することは難しいので、これを機会に保育を記録することも知っていただければと思います。

す。また、公開園の保育者にとってもその記録を見ることで、子どもの姿や興味・関心をより明確に知ることができます。

ぜひ、ワークシートを参考に記録にチャレンジしてみてください。



参加園

永福保育園
岡田保育園
タンポポハウス
平保育園
東山保育園
うみべのもり保育所
中保育所
西乳児保育所
朝来幼稚園

講義 (部分)指導案について

子どもが今やっている遊び、子どもが今抱えている生活課題、子どもの今の発達の特徴、対人関係に関する課題などの子どもの姿から、なぜ、このねらいにするのか言えることが大事。 ～北野先生より～

部分指導案
「タイトル」

1日時 平成 年 月 日(曜日)

時 分～時 分

2対象児 年保育 歳児 組
(男児 名 女児 名)

3子どもの姿

<子どもの生活の特徴>

<発達の特徴>

<遊びの特徴>

4ねらい

○
○

5保育の内容

6内容選択の理由

【基本的な用語の整理】

◎全体的な計画

・教育課程とは、入園してから卒園までの子どもの育ちの全体像を示している。

・保育課程とは、教育の時間だけでなく、子どもがいる時間を指している。預かり保育の時間の教育をふくめた全体的な計画。養護を基盤としている。

◎指導計画とは、長期、短期に分かれる。全体的な計画よりも、季節、園、地域によって変わる部分がある。

◎長期：年間・月案、短期：週案・日案、全部含んでカリキュラムという。

【指導案を書くために】

◎日案をしっかり書くことが大事。子どもの姿から教育の計画を立てる。

◎構造的に考えることが大事。まずは、トレーニングする。

◎経験だけでは、保育の実践力があがっていない。計画をちゃんと立て、保育を見直し、振り返ることが大事。

◎子どもたちの体験、経験が根っこにあり、子どもの気持ちを大事にする経験主義

カリキュラムだからこそ、根拠が子どもの姿にないといけない。(設定保育にしても)

◎子どもが、興味・関心を持つという子どもの事実からスタートする。

◎子どもが今やっている遊び、子どもが今抱えている生活課題、子どもの今の発達の特徴、対人関係に関する課題などの子どもの姿から、なぜ、このねらいにするのか言えることが大事。

◎日案、指導案、部分指導案を書くとき、何でこのねらいか、突き詰めて考えてほしい。

◎ねらいが明確にあり、内容選択の理由があることを言えるようになることが大事。それが乳幼児教育の醍醐味である。



「〇〇遊びを楽しむ」というねらいならば、保育者が何をもって、楽しむか、楽しまないかを判断するのか～ことば、行動、表情などを具体的に書く。 ～北野先生より～

7実施計画

時間	環境構成	予想される子どもの姿	保育者の援助と配慮	評価の観点
	<ul style="list-style-type: none"> ☆…の準備をしておく ☆…の用意をしておく(道具や素材の内容) 	<ul style="list-style-type: none"> ☆…する ☆…グループをつくる ☆…をする ☆…に気付く ☆…伝え合う ☆…を共有する 	<ul style="list-style-type: none"> ☆…しやすいよう声かけをする ☆…するように促す ☆…適宜援助する ☆…と感じられるようにする ☆…のための…の準備をする ☆…しやすいように…と問いかける ☆…伝える 	<ul style="list-style-type: none"> ☆笑顔で関わっているか ☆…な感じたことを言葉で友達に伝えているか

【具体的な指導案の書き方】

◎ねらいが達成されるために、方略(教育学の専門用語)がある。方略を、二つのカテゴリーに分けて整理すると計画は立てやすい。

◎「保育者の援助の工夫」と「環境構成の工夫」の二つの分類項目を意識してほしい。

◎「保育者の援助の工夫」では、どのような働きかけ、言葉がけをするのか？ どのように励まし、応援するのか？ どのようなモデルを見せるのか？ どのように子ども同士をつなげるのか？を意識する。生活課題は、子どもと一緒にする。

◎環境を通じた教育が大きなキーワードである。今の遊びの姿、生活の課題、発

達の特徴をふまえて、どのような教材を用意したり、どのような動線を考えたり、どのような環境を構成するのか、ということ是指導案を立てる上で重要である。(乳幼児教育の特徴)

◎評価の観点とねらいが同じになっている指導案があるが、評価の観点は、より具体的なもの「～あそびを楽しむ」「何をもって本当に楽しめていたのか」を保育者はどう評価するのか？指導案を書く時点から、頭の中で構想しておく。

◎保育者は、同じ時間、同じ現場にいても見抜けるものが違う。それは、観点があるかないかによって変わってくる。観点を持っておくとよい。

◎「〇〇遊びを楽しむ」というねらいなら

ば、保育者が何をもって、楽しむか、楽しまないかを判断するのか。抽象的なねらいを書くが、その時に何をもって評価、判断するのか、ことば、行動、表情などを具体的に書く。

◎「〇〇のような表情をして」「〇〇にもくもくと没頭している」という行動をもって「楽しむ」と評価する。

◎領域ごとのねらいは、体験、経験主義的なカリキュラムなので一つの遊びの中に、複数の領域のねらいが埋め込まれている。

◎保育の現場は、ライブで流れて消えていく。子どもの状態を把握する時、どれだけ予測の引き出しを持っているかによって、流れていく現象を見落としにくくなる。経験とともに引き出しは増えていく。

平成28年7月8日(金)城南会館において、乳幼児教育ビジョン説明会を実施しました。ビジョンに書かれている「主体性」とはどういうことかを、園での様子を通して紹介しました。

実際に保育している保育者から、具体的な子どもの姿や場面を写真と言葉でお伝えしました。